

(3) 障がい者スポーツ指導員基準カリキュラム

1) 初級障がい者スポーツ指導員養成講習会 (18 時間以上)

領 域	講習科目	内 容	時 間
福 祉	障がい者福祉施策と 障がい者スポーツ	障がい者福祉施策の体系、サービス体系、今後の動向と障がい者スポーツとの関連性を学ぶ。	2.0
	ボランティア論	ボランティア精神と活動の基本的姿勢を学ぶ。	2.0
医 療 ・ 体育学 ・ 障がい者 スポーツ	障がい者スポーツの 意義と理念	障がい者のスポーツの捉え方やその意義、効果を学ぶ。	2.0
	安全管理	スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。	1.0
	障がいの理解とスポーツ	各障がいの主な特性を学び、その特性に配慮しながら安全にスポーツを実施させるために必要な最小限の知識を身に付ける。 <身体障がい（内部障がいを含む） 2 時間以上、 知的障がい 2 時間以上、 精神障がい 1 時間以上>	5.0 以上
	(公財)日本障がい者スポーツ協会 公認障がい者スポーツ 指導者制度	日本障がい者スポーツ協会公認障がい者スポーツ指導者制度の障がい者スポーツ指導員の役割や組織について知る。	1.0
	全国障害者スポーツ大会 の概要	全国障害者スポーツ大会の開催目的や実施競技、一般競技とは異なる点などの概要を学ぶとともに、大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解する。	1.0
実技 ・ 実習	障がいに応じたスポーツの 工夫・実施	障がいのある人がスポーツやレクリエーションを安全に楽しむためには、既存のルールや用具をどのように工夫したらよいかを実技を通して学ぶ。	2.0 以上
	障がい者との交流	スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞く。または、スポーツ活動現場に出かけ障がい者とのふれあいを体験する。	2.0
時間数			18 時間 以上

2) 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 (56 時間以上)

領 域	講習科目	内 容	時 間
医 療	障がい各論	障がいの種類や特性を学び、より専門的な指導ができるような知識を身に付ける。＜身体障がい（内部障がいを含む）6 時間以上、知的障がい 3 時間以上、精神障がい 2 時間以上＞	11.0 以上
	補装具の理解	補装具の種類とその構造を知り、その取り扱いについて学ぶ。 （車いすのパンク修理などの実務経験も含む）	2.0
体育学	文化としてのスポーツ	文化としてのスポーツの位置づけやその意義、在り方を学ぶ。	2.0
	身体の仕組み	身体の仕組みとその構造について学ぶ。	2.0
	トレーニング論	トレーニングの原則や基本的なトレーニング方法を学び、安全かつ効果的な練習計画の作成ができる知識を身に付ける。	3.0
	発育・発達	身体の発育・発達の原則と精神的な発達、知的障がいの発育・発達について学ぶ。	3.0
	救急処置法	スポーツ現場における応急処置、心肺蘇生法および AED について、実技を通して学び、対応できる技術を身に付ける。	3.0
	スポーツ心理学 I	スポーツへの動機づけの仕方、あがりの仕組み、リラクゼーション法、メンタルトレーニングなどについて理論と実践を学ぶ。	3.0
	スポーツと栄養	栄養と身体活動の関係とスポーツの特性を踏まえた効果的な栄養摂取の仕方など（休息、水分補給、サプリメントの摂り方含む）を学ぶ。	2.0
障がい者 スポーツ	障がい者のスポーツ指導 における留意点	各障がいに応じた指導の事例を通して、指導上の留意点を学ぶ。	3.0
	全国障害者スポーツ大会 の歴史と目的と意義	全国障害者スポーツ大会の歴史的背景と目的と意義を学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 選手団の編成とコーチの役割	全国障害者スポーツ大会における選手選考の流れや参加申込方法と選手団編成の仕組み、コーチの在り方や役割を学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 の実施競技	全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の概要を学ぶ。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 の障害区分	全国障害者スポーツ大会で適用されている障害区分を学ぶ。	2.0
実技 ・ 実習	全国障害者スポーツ大会 競技の指導法と競技規則	全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その競技規則や指導法など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。 ＜水泳 3 時間、陸上 3 時間、その他全国障害者スポーツ大会の競技より 3 競技を選択し各 2 時間＞	12.0
	最重度障がい者のスポーツ の実際	最重度障がい者がおこなっているスポーツの体験を通し、様々な創意工夫の実例を学び、障がいが重度であってもスポーツを楽しむことができることを体感する。	2.0
時間数			56 時間 以上

3) 上級障がい者スポーツ指導員養成講習会 (52 時間)

領 域	講習科目	内 容	時 間
福 祉	わが国の障がい者福祉施策の現状	障害者福祉自立支援法の目的とその法律が及ぼす障がい者スポーツ場面への影響について学ぶ。	2.0
	わが国のスポーツ施策と障がい者スポーツ	わが国のスポーツ施策について学ぶと共に日本障がい者スポーツ協会が掲げる「日本の障がい者スポーツの将来像」について学ぶ。	2.0
医 療	スポーツ傷害・障害の予防と管理	障がい者がスポーツをする際に起こりやすい怪我や二次的障害の実際とその予防法を学ぶ。	2.0
	選手団の健康管理	国内外への大会遠征時における選手・役員の健康管理について、選手団管理者として留意しておかなければならない事項や体制を学ぶ。	3.0
体育学	総合型地域スポーツクラブと障がい者スポーツ	総合型地域スポーツクラブの現状と障がい者スポーツとの関連について学ぶ。	2.0
	高齢者とスポーツ	高齢障がい者の特性を理解するとともに、実際におこなわれているスポーツを事例に出しながら、その意義や指導上の留意点を学ぶ。	3.0
	リスクマネジメント (大会・教室・組織など)	大会や教室などの企画・運営に際して、主催者として配慮しておかなければならない安全上の留意点を学ぶ。	3.0
	事故などトラブルの対処法	事故が起きた際の初動、言動、対応の仕方について、問題拡大を未然に防ぐ配慮と方法（法的責任や保険）について学ぶ。	2.0
	スポーツ心理学Ⅱ	競技スポーツ場面における選手心理と指導者としての効果的な心理的アプローチの仕方を学ぶ。	3.0
障がい者 スポーツ	わが国の障がい者スポーツの歴史と現状	国内外の障がい者スポーツの歴史的経過と現在の状況およびこれからの展望などを学ぶ。	2.0
	国内外におけるスポーツ指導者の役割・課題とその動向	国内外のスポーツ指導者の動向に触れ、今後のわが国のスポーツ振興に向けた関係団体との連携した体制づくりについて検討し、指導者としての視野を広げる。	2.0
	上級障がい者スポーツ指導員の役割と心構え	上級指導員としての責務と役割を学び、資格取得後の活動について考える。（全国障害者スポーツ大会における役割を含む）	2.0
	イベントの企画運営の実際	イベントの企画から運営までの実施計画をグループ単位で立案・発表（プレゼンテーション）し、効果的な企画・運営の仕方を学ぶ。	6.0
	地域における障がい者スポーツの課題とその解決法	地域における障がい者スポーツの課題をグループ単位で話し合い発表する。また、その課題について協議し問題解決策を見出す。	6.0
実技 ・ 実習	指導案の作成と検証	競技種目および実施対象となる障がいの種類や程度を指定し、その指導案を作成・発表する。また、その内容に含まれている問題点などを抽出・検証し、安全に指導する方法を学ぶ。	8.0
	障がい者スポーツ実技	障がい者スポーツの実技をおこない、その特性を確認するとともに、受講者相互のコミュニケーションを図る。	4.0
時間数			52 時間

4) 公益財団法人日本スポーツ協会公認スポーツ指導者対象 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 (29 時間以上)

領 域	講習科目	内 容	時 間
医 療	障がい各論	障がいに留意した指導ができるよう、各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学ぶ。 脊髄損傷・切断・関節障がいその他機能障がい (2.5h) 脳原性麻痺 (CP, CVA) (1.5h)、視覚障がい (1.5h) 内部障がい (1.5h)、聴覚障がい (1.5h) 知的障がい (1.5h)、精神障がい (1.5h)	11.5 以上
障がい者 スポーツ	障がい者スポーツ概論	我が国の障がい者スポーツの歩み、日本障がい者スポーツ協会の取り組みを通じて、障がい者スポーツの意義、その現状について学ぶ。また一般スポーツとの施策やスポーツ環境の違いを理解するとともに、障がい者スポーツの課題や現状を学ぶ。	1.5
	全国障害者スポーツ大会の概要	大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の大きな動機づけになっていることを理解するとともに、一般競技とは異なる点や開催目的、参加資格、競技規則の成り立ち、実施競技、障害区分等について学ぶ。	1.5
	義肢装具の理解	義肢装具の種類や特徴を学ぶとともに、指導者として最小限知っておくべき事柄やスポーツ指導現場での留意点を理解する。	1.5
	地域での障がい者スポーツの取り組み	地域における障がい者スポーツの実施例、課題等から、スポーツ指導員としてどのような活動が求められるかを学ぶ。また、その内容をふまえ、自身が普段指導しているスポーツ活動に、障がい者を参加させるためのプログラム作成能力を身につける。	4.0
	障がい者にとってのスポーツの価値	障がい者の実体験に基づく話を聞き、障がい者にとってのスポーツの価値について理解を深め、指導者としてのあり方を学ぶ。	1.0
実技 ・ 実習	車いすとスポーツ	車いすを使用したスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、準備運動、起こりやすいケガとその予防法、車いす介助法などについても学ぶ。	2.0
	視覚障がい者とスポーツ	視覚障がい者が行うスポーツの体験を通して種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法(手引)やコーチング(方向指示・言葉かけを含む指導)の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2.0
	脳原性麻痺者とスポーツ	脳原性麻痺者が行うスポーツの体験を通して種目の楽しさやルールを学ぶ。また対象者の麻痺の状況を留意し、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2.0
	障がい特性に応じた水泳への導入法	障がい者がプールに入る際の更衣室内の配慮、入退水から水中でのサポート方法など、指導の際の安全確保について障害別症例により留意点を学ぶ。また、片側麻痺や視覚障がいの疑似体験による水中歩行や泳ぎ方についても実際におこない、障がい者にとっての水の効用や障害特性に応じた浮き身や立ち方の指導法などの実践力を身につける。	2.0
レポート	活動実績報告	障がい者スポーツに関わるきっかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域での障がい者スポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後 作成 提出
時間数			29 時間 以上

5) 公益社団法人日本理学療法士協会登録理学療法士対象 中級障がい者スポーツ指導員養成講習会 (29.5 時間以上)

領 域	講習科目	内 容	時 間
医 療	障がい各論	各種障がいに関する医学的・心理的な特性を学び、障がいに留意した指導が不可欠であることを学ぶ。 視覚障がいの概要 (1.0h) 聴覚障がいの概要 (1.0h) 知的障がいの概要 (1.5h) 精神障がいの概要 (1.5h)	5.0 以上
体育学	スポーツ心理学	スポーツ場面における選手の心理状況を学び、指導者として選手に対する効果的な心理的アプローチの方法について学ぶ。	1.5
	トレーニングの基礎知識	各種トレーニングの特徴を理解し、障がいに留意したトレーニングプログラムの組み立て方や実施上の留意点について学ぶ。	2.0
	スポーツと栄養	栄養と身体活動の関係とスポーツの特性を踏まえた効果的な栄養摂取の仕方等(休息、水分補給、サプリメントの摂り方含む)について学ぶ。	2.0
障がい者 スポーツ	障がい者スポーツと理学療法	理学療法士として、障がい者スポーツの造詣を深めるとともに、関わる意義やその方法について学ぶ。	1.0
	全国障害者スポーツ大会概要 と障がい者スポーツ指導者について	我が国の障がい者スポーツを知る上でその歴史的な背景も含め、全国障害者スポーツ大会の概要を学ぶ。また障がい者スポーツ指導者制度についても学び、障がい者スポーツ指導者の各資格における役割や求められる活動について理解を深める。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 の障害区分	全国障害者スポーツ大会の障害区分を正しく理解し、障害区分を判定する際の留意点等を学ぶ。	1.5
	障がい者のスポーツ指導上 の留意点	各障がいに応じた指導の事例を通して指導上の留意点(リスク管理含む)について学ぶ。	1.5
実技 ・ 実習	視覚障がい者のスポーツ実習	視覚障がい者が行うスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、介助法(手引)やコーチング(方向指示・言葉かけを含む指導)の仕方を含め、安全にスポーツを実施するための留意事項について学ぶ。	2.0
	車いすスポーツ実習	車いすを使用したスポーツの体験を通してその種目の楽しさやルールを学ぶとともに、準備運動、起こりやすいケガとその予防法、車いす介助法などについても学ぶ。	2.0
	重度障がい者のスポーツ実習	重度障がい者が行っているスポーツ、レクリエーションの体験と様々な創意工夫の実例を紹介し、障がい者であってもスポーツを楽しむことができることを体験する。	2.0
	全国障害者スポーツ大会 実施競技の実習	全国障害者スポーツ大会の実施競技を体験する中で、その競技の特性やルールについて理解を深め、障がい者がスポーツ実施する際の指導上の留意点についても学ぶ。	7.0 以上
レポート	活動実績報告	障がい者スポーツに関わるきっかけ作りとして、講習会終了後に個別に地域での障がい者スポーツに関わる活動をし、その内容をレポートにまとめ提出する。	講習後 作成 提出
時間数			29.5 時間 以上